

接道条件からみた土浦市中心部における階層別床利用に関する分析
 An analysis of Buildings floor usage from the viewpoint
 of the frontal street in Central Tsuchiura Area

花島 裕樹 (博士後期課程地球環境科学専攻)

Yuki HANASHIMA (Doctoral Program in Geoenvironmental Sciences)

1. はじめに

従来の土地利用分析は、平面的で各階層の床利用にまで言及した分析は少ない。既往研究により、階層別床利用は接道条件に影響することが示唆されている。このことより本研究では、建築物の階層別床利用に着目し、接道条件との関連を明らかにする..

2. 対象地域

土浦駅西口前を対象地域とした (図 1)。対象地域は駅ビルの撤退を始めとして、商用地として中心部の空洞化が危惧されている。また、近年相次いで大型マンションが 2 棟建設され、住居中心へと性格が変容し始めている。

3. 調査方法

現地調査により階層別床利用を調査した。ArcPad (ESRI 社) を用いてデータの作成を現地で行った。



図 1 調査対象地域

(「Zmap-TownII」ゼンリン社刊行 を用いて作成した)

4. 分析・結論

図 1 における 3 本の道路沿いごとに床利用分布を分析した。それぞれの道路沿いの建築物の床利用出現頻度より、接道条件ごとに床利用の特性が異なることが明らかになった。都市の形成過程に関する議論により、差異の要因が考察できると考える。

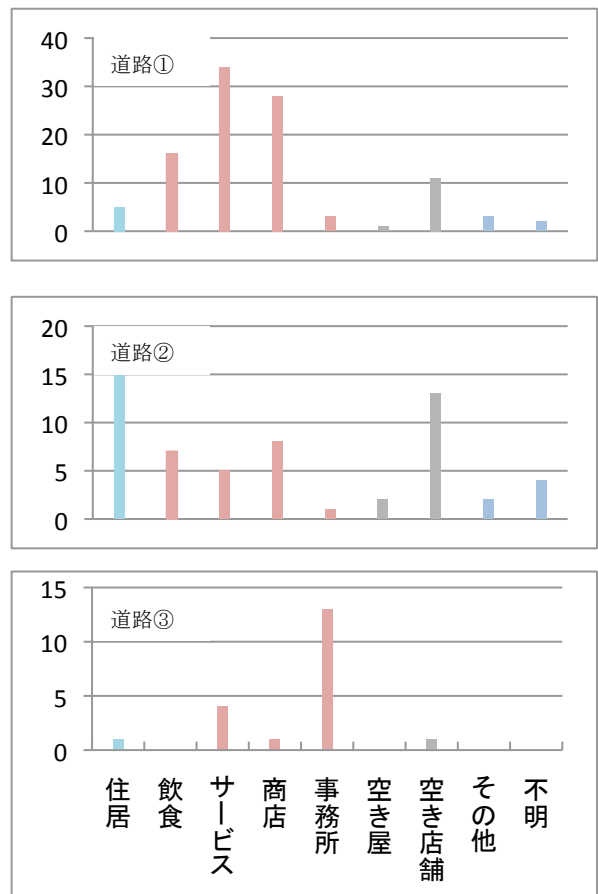


図 2 各道路沿い別の床利用分布